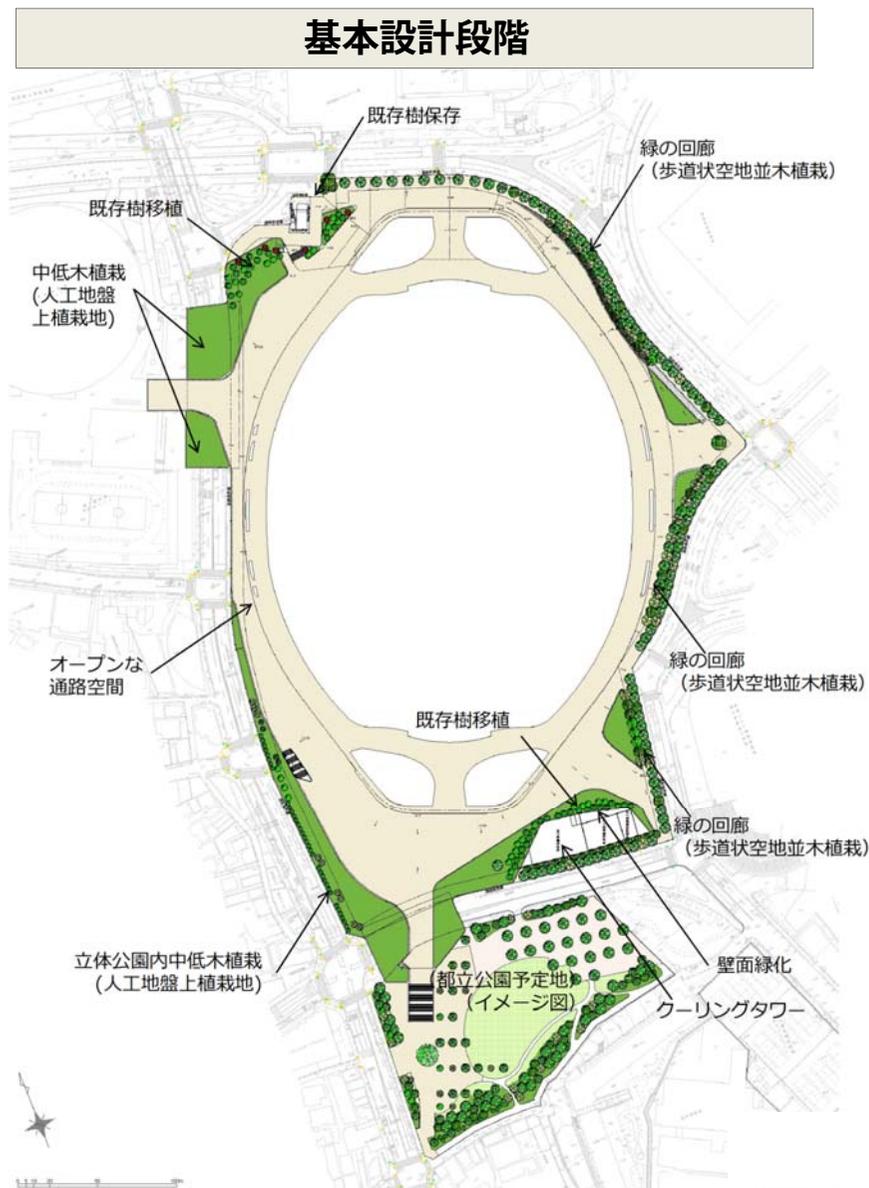


2. 基本設計時からの主な変更点 (3) ランドスケープ計画・緑化計画

景観審議会等のご意見を踏まえ、神宮外苑の緑と調和するように敷地内のランドスケープ計画・緑化計画の充実を図った。

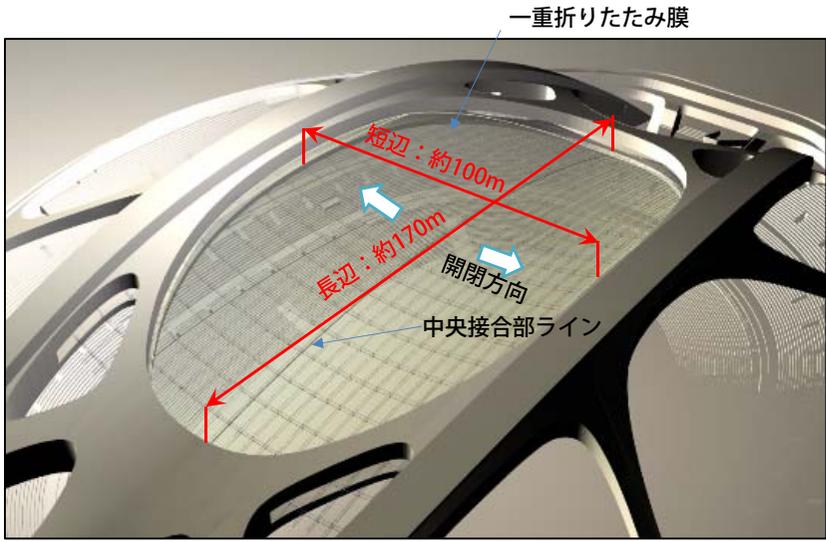
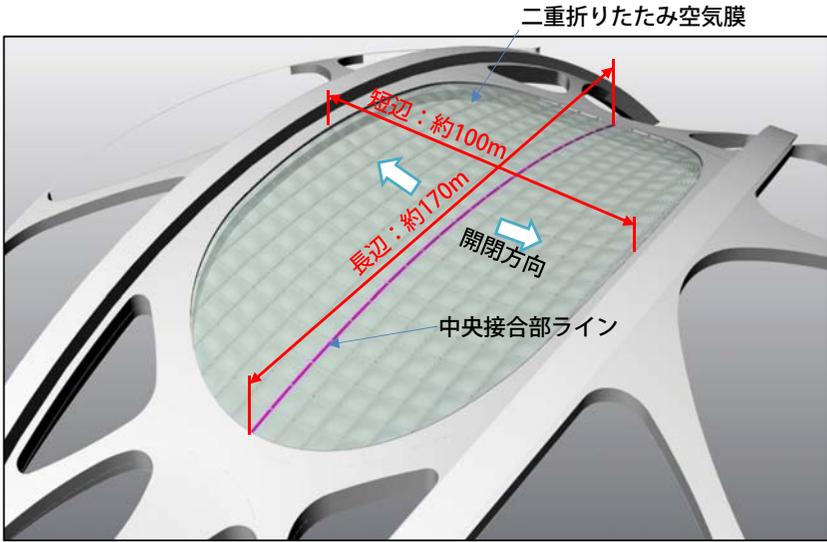


ラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック大会時に必要な仮設施設、駐車スペースなどの確保や日本学術会議からの提言を踏まえ、ペDESTリアンデッキの縮小を今後検討する。

2. 基本設計時からの主な変更点 (4) 開閉式遮音装置

開閉式遮音装置は、風や積雪に対する抵抗力を高めるため、二重膜を用いた折りたたみ空気膜構造とした。

※整備時期については後述。

	基本設計段階	実施設計段階
構成	一重折りたたみ膜	二重折りたたみ空気膜
文化イベント時 (コンサート等) の開閉の運用	<p>風：平均風速17m/s を超えることが予想される場合 (鉄道が止まる風速：瞬間風速25m/s 程度)</p> <p>↓</p> <p>事前に開状態とする</p> <p>雪：30cm未満の積雪予測までは閉状態を維持する。</p>	<p>風：平均風速34m/s以下の場合 (50年間に数度経験する程度の台風直撃時)</p> <p>↓</p> <p>閉状態を維持する (イベント継続可能)</p> <p>雪：42cm未満の積雪予測までは閉状態を維持する。</p>
イメージ	 <p>一重折りたたみ膜</p> <p>短辺：約100m</p> <p>長辺：約170m</p> <p>開閉方向</p> <p>中央接合部ライン</p> <p>設計積雪深 (荷重) : 30cm (600N/m²)、融雪装置あり</p>	 <p>二重折りたたみ空気膜</p> <p>短辺：約100m</p> <p>長辺：約170m</p> <p>開閉方向</p> <p>中央接合部ライン</p> <p>設計積雪深 (荷重) : 42cm (840N/m²)、融雪装置あり</p>

- ・開閉式遮音装置は、コンサート等の文化イベント開催時に使用する。
- ・「平均風速」は、地上10mの高さにおける10分間の平均風速を示す。実際の設計は、設計高さにおける風速に換算して計算している。
- ・瞬間風速と平均風速の関係：「瞬間風速」は、建築基準法及び日本建築学会基準で使用する10分間平均風速である「風速」の1.5倍～3倍程度に達することがあると言われており、「瞬間風速」25m/sは、「風速」では8.3～16.7m/s程度と想定される。
- ・雪の比重は、20N/m³/cmとする。気象庁 (大手町) の過去30年の観測記録では、平地における積雪深30cm以上の積雪は観測されていない。

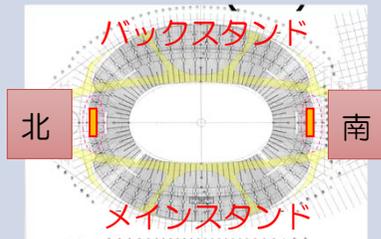
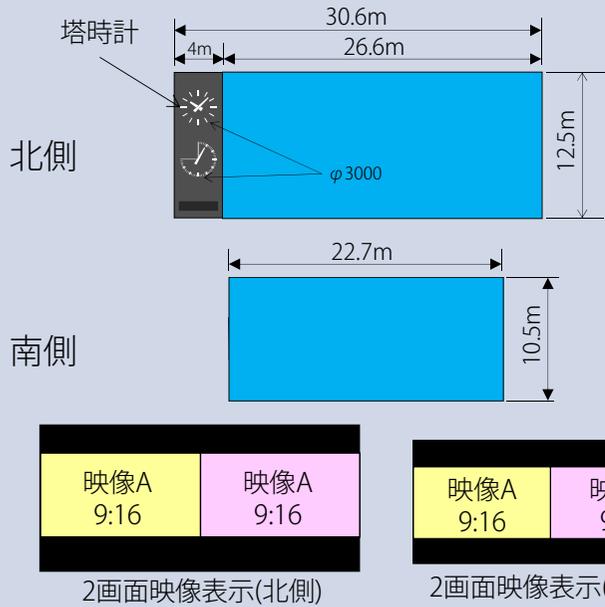
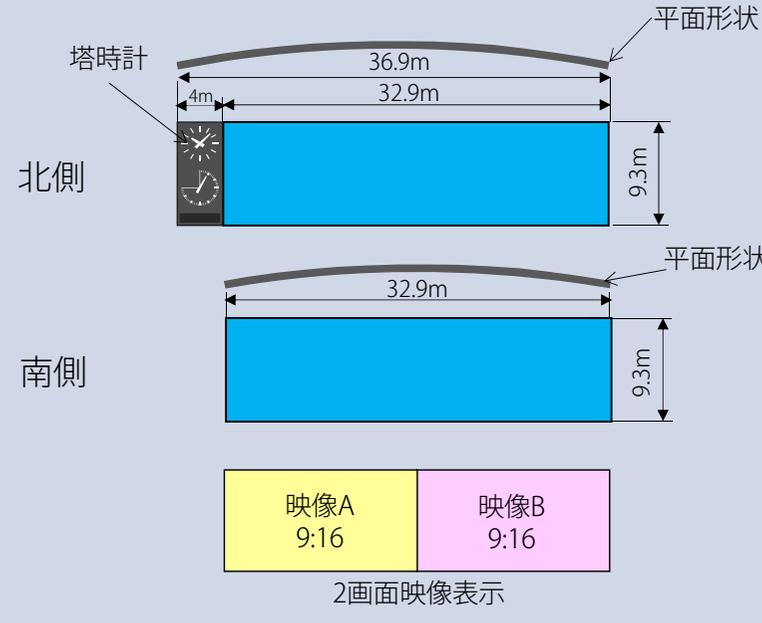
2. 基本設計時からの主な変更点 (5) 大型映像装置

大型映像装置の下に、車いす席及びBOX席を確保するため、大型映像装置の形状を変更した。

南北の大きさを統一し、南北同一の映像による対応を可能とするとともに、ディスプレイ面積の増加及びディスプレイを最大限生かした2画面表示を可能にした。

基本設計段階

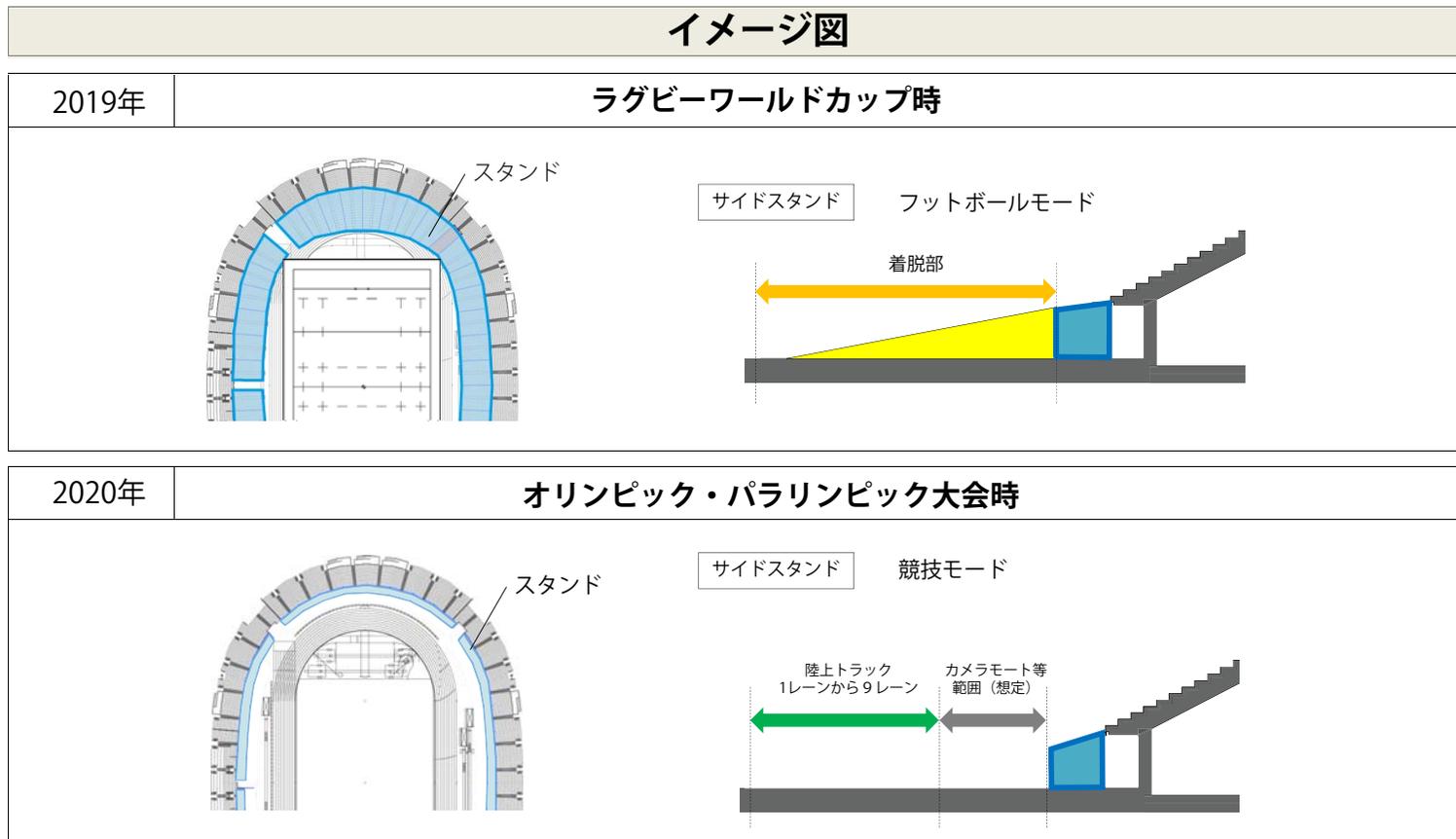
実施設計段階

	基本設計段階	実施設計段階
	南北2面 北側：H12.5m、南側：H10.5m	南北2面高さ9.3m案 北側：H9.3m、南側：H9.3m
		
外形サイズ	北側：W:30.6m×H:12.5m (内塔時計4m) 南側：W:22.7m×H:10.5m	北側：W:36.9m×H:9.3m (内塔時計4m) 南側：W:32.9m×H:9.3m
ディスプレイ面積	北側：333m ² 南側：238m ² 合計：571m ²	北側：306m ² 南側：306m ² 合計：612m ²

2. 基本設計時からの主な変更点 (6) 工期・価格・環境を踏まえた設計の見直し

1. 可動席の簡素化

電動式の可動席（約15,000席）から簡易着脱式可動席に変更し、工期・価格を圧縮。今後詳細設計を行う。



2. 空調設備の一部見直し

レガシー時のメンテナンスコストを軽減するため、3層目スタンドの空調設備を換気設備に見直すこととし、今後詳細設計を行う。

3. ペDESTリアンデッキの縮小

ラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック大会時に必要な仮設施設、駐車スペースなどの確保や日本学術会議からの提言を踏まえ、ペDESTリアンデッキの縮小を今後検討する。

3. 段階的整備について

新国立競技場は、2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック大会のメインスタジアムとして使用され、その後レガシーとして運営することとしている。

そのため、2019年、2020年、レガシー時各々の段階で確実に運営できることが重要であり、設計者、技術協力者との協議の結果、ラグビーワールドカップまでに実施設計内容の全てを整備することが困難となったことから、ラグビーワールドカップに確実に間に合わせることを優先し、段階的に整備を進めていくこととする。

1. ラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック大会に向けた整備

- ・整備内容 : 設計概要(案)のうち、以下の「2. レガシー時の活用に向けた整備」を除いた整備を行う。
- ・工期 : 2019年5月末(44ヵ月)
- ・目標工事費: 2,520億円

注) ラグビーワールドカップ時への対応として、インゴール部分の確保及び簡易着脱式可動席によるダメージを回避するため、ラグビーワールドカップ終了後、オリンピック・パラリンピック大会前に陸上トラック舗装を施工する。

2. レガシー時の活用に向けた整備

レガシー時の発展的・継続的な利活用に向け、下記をオリンピック・パラリンピック大会後に整備する。

①開閉式遮音装置の設置

レガシー時の文化イベントを含めた幅広い活用に向け、オリンピック・パラリンピック大会後に整備する。

②芝育成補助システムの設置

天然芝育成のための土壌空気交換システム・地中温度制御システムは、レガシー時の活用に向けた整備とする。
(ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック大会時は、その都度芝を張り替える。)

③東西面ガラスカーテンウォールの設置

コンコースへの雨風吹き込みを恒常的に防止するため、オリンピック・パラリンピック大会後に整備する。

※ここでは、ガラスカーテンウォールとはガラス製の外壁のことを指す。

3. 段階的整備について 工期について

